

平成 29 年度 小児訪問看護スキルアップ研修報告

日 時：平成 29 年 12 月 5 日（火） 10 時 00 分～12 時 00 分

会 場：徳島県看護会館 新館

参加者：12 名 事務局 3 名

内 容：

1. 演習

テーマ：実習の振り返りと研修のまとめのグループワーク

スーパーバイザー：吉野牧子氏（あおぞら内科訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師）

講義、実習を踏まえ課題シートを活用して、演習①②の項目を検討し、各グループから発表して頂きました。

演習①「医療的ケアが必要な障がい児が安定した在宅療養を継続できるための方法を検討する」

演習②「小児訪問看護の役割が理解できる」

【吉野先生からのコメント】

医療的ケアが必要な障がい児が安定した在宅療養を継続するためには、連携やコーディネートが重要である。そのために、訪問看護ステーションだけでは無理があるので、訪問看護支援センターや訪問看護連絡協議会などでシステム作りをして頂きたい。

（小児訪問看護の役割のヒント）

- ・ 病気や障がいを持つ子供が生まれるということは、贖罪の意識を持つことから始まる。自分らしい人生を一旦、全て失うと言われており、仕事を辞めたり、兄弟も今までと全く違う人生を歩む。
- ・ **Recovery**（リカバリー）とは回復という意味ではなく、「疾患や障がいを持ちつつも、自分らしい人生を取り戻すこと」である。訪問看護は主導を取るのではなく、傾聴し、併走していく。
- ・ 家族（母親）に信頼を得る唯一の方法とは、「看護」しかない。どんなに働きかけても母親の心に響かなければ信頼関係は築けない。看護がうまくいくと信頼を得られる。
- ・ 訪問看護で行う大切な 5 つの体調管理とは
 - ① 呼吸：呼吸管理をすること。呼吸器装着の有無に関わらず絶対に必要である。
 - ② 栄養：栄養のないところにリハビリはない。
 - ③ 水分：水分を入れることで何とか栄養摂取に繋げることができる。脱水になっている場合は栄養も摂ることができない。
 - ④ 排泄：透析でも人工肛門でも、排泄が上手くいけば栄養も入るし発達もできる。
 - ⑤ 睡眠：睡眠が上手くいかないと親も睡眠がとれない。
この 5 つの体調管理が出来ることが「看護」。
- ・ そして、退院後 1 ヶ月は再入院しないことを目標にする。これができる母親の信頼が得られる。再入院せず、体調よく持って行けることが私たちの仕事である。
最後に母親の意思決定の支援をする。学校へ行くのか、食事は胃瘻にするのか、自己決定を支えるために看護を行う。

【受講者の意見】

- ・ たくさん得るものがあった。
- ・ 実習で学んだことの振り返りができた。
- ・ 不安に思っていることが同じであることがわかった。
- ・ 実際の現場で起こっていることについて、他の研修生やスーパーバイザーから学んだことは勉強になった。



2. 修了式

10月13日に開講した小児訪問看護スキルアップ研修も12月5日最終日を迎え、修了式を行いました。受講者14名中、10名が修了し、徳島県訪問看護支援センター 邊見センター長から修了証書が授与され、激励のメッセージが送られました。研修で学んだことを活かし、今後の皆様のご活躍を期待しております。

